



①②横山の切通/横山峠(よこやまのきりとおし/よこやまとうげ)
内野から阿恵に向かう途中に岩盤が掘削された切通があります。この場所は高山から続く尾根の先端と、旧長崎街道が交差する所にあたり、かなり急な峠が形成されていたといわれています。昭和3年(1928)、隣接地を走る鉄道の敷設にあわせて尾根が開削されて現在のような形になりました。道幅と掘削された岩盤の高さは約5mあり、丘の上への階段口に「薬師如来二十三番」の石柱が建てられています。



③湯之浦公民館(ゆのうらこうみんかん)
湯之浦公民館の前にある大きな木の下は休憩に最適です。



④猿田彦大神(さるとひこのおおかみ)
猿田彦大神は、一般に道の神・道祖神と考えられています。また、後に修験道が盛んになると、天狗(てんぐ)の神様ともみなされるようになりました。元々は、天孫降臨の際に、邇邇芸命をご案内しようと、道の途中でお待ちしていた神様です。このことから、この神は道の神、道案内の神、旅人の神とされました。この猿田彦大神の石碑の後ろに伸びている竹は上にある木の根を突き抜けて伸びていました。



⑤愛宕神社(あたごじんじゃ)
愛宕神社は火難除けのご利益があると言われています。旧街道と筑豊本線が交差する踏切近くの小高い丘の上にあり、道路側にある階段を上り鳥居を潜ると尾根の先端を削って作られたお堂の前にでます。周りに石祠が数基有りあり静かな佇まいを残しています。由緒等の詳細は不明です。



⑥愛宕之池水神(あたごのいけすいじん)
愛宕神社の鳥居のすぐ先に水神様が祀られています。昔はここで休憩し、清水を飲んでいたのでしょうか。祠の中は地元の人によって綺麗に清掃され、直径1mほどの溜り水があります。



⑦虎御前の墓(とらごぜんのはか)
阿恵の久手に由緒は不明ですが「虎御前の墓」と伝えられる石塔があります。虎御前は仇討ちで有名な曾我十郎のなじみの遊女であったといわれています。この墓石に溜まっている雨水は、江戸時代には「※おこりの薬」、明治・大正時代には「腫れ物の薬」といわれていました。※おこり=間欠的に発熱し、悪感(おかん)や震えを発する病気。主にマラリアの一種、三日熱をさした。



⑧馬出橋(うまでばし)
馬出橋は阿恵地内を流れる県営山口川の市道横山線に大正14年12月に設置されました。参勤交代で旧長崎街道を通過していた人々は、ここ(山口川)で馬を洗い休憩していたそうです。



⑨阿恵の旧街道沿い(あへのきゅうかいどうぞい)
馬出橋付近の旧家です。犬除けの犬矢来(いぬやらい)があります。



⑩阿恵の老松神社(あえのおいまつじんじゃ)
旧街道に接して江戸時代建立の鳥居があります。阿恵の往古からの産神は樹木の神「句々迺智神」でした。正平7年(1351)当阿恵の庄が太宰府天満宮神領とされたので、菅原神を合祀し社号を老松宮と改めました。現在、神殿・拝殿の右に祠があり「木祖宮」という立派な額を上げています。「句々迺智神」は「木祖」とされており、菅原神を祀り老松宮に改めた時に産神ではなくなりましたが、阿恵の人たちによりここに小祠を設けて祀られています。



⑫長尾の老松神社(ながのおいまつじんじゃ)
筑穂町長尾は、平安時代から土師庄の内安楽寺(現在の太宰府天満宮)の荘園でした。長尾の往古からの産神は貴船神社でしたが、安楽寺の荘園にされたことで貴船神社の社地に菅原神を祀り社号を老松宮と決めました。



⑬旧長崎街道との分岐点(きゅうながさきかいどうとのぶんきてん)
筑穂町長尾から穂波町天道までの道筋は、元禄14年(1701)までの間に路線の変更がありました。直進すると古い街道で右折すると新しい街道になります。



⑭汐井川橋(しおいがわばし)
旧街道との分岐点から右折すると穂波川にかかる汐井川橋を通り、国道200号(長尾交差点)に合流します。国道200号線⑮出雲(いずも)交差点近くにあるミニストップの先から左に入っていきます。



⑯豆田天満宮(まめたてんまんぐう)
豆田天満宮は福岡藩主・黒田忠之により承応年間(1652~1654)に穂波川のほとりから現在の場所に移し、神殿、拝殿、鳥居などを造営されました。菅原道真が祀られています。



⑰一里塚跡と一字一石塔(いちりつかあとといちじいっせきとう)
筑穂町の大木に所在し、現在、榎の大木があります。この一里塚跡は旧長崎街道の路線変更前の古い時代のものと考えられています。広場には石碑が3基一列に並んでいますが、底部をセメントで固めてある為、別の場所からそれぞれ移したと考えられます。中央が一字一石塔です。



⑱天開稲荷大明神(てんかいいなりだいみょうじん)
太宰府天満宮内にある同名の天開稲荷神社との縁もあるのかもしれませんが。旧長崎街道は寿命の天開稲荷大明神の前を通り多田組倉庫あたりからJR福北ゆたか線のトンネルをくぐり、泉河内川を渡り、瀬戸の渡しへと続きますが、この間、道が消失していますので迂回します。

